

平成26年度水産研究成果情報

課題名:カゴを用いたスミノエガキ短期蓄養試験

[背景・ねらい]

有明海特産種であるスミノエガキは、一部漁業者が、干潟に生息する天然個体を採捕して販売しているが、場所によっては干潟の干出により摂餌時間が制限されるため身入りの差が大きく、現状では商品価値が低い状態にある。そこで、スミノエガキを干出がなく常時摂餌可能な沖合で短期間蓄養することにより、身入りの向上試験を行った。

[成果]

平成26年12月から平成27年3月にかけて鹿島市沖の試験区(図1)において、干潟のスミノエガキをコンテナカゴ及び丸カゴ(図2)に收容し、垂下養殖試験を実施した。

- (1)スミノエガキの身入りは、試験開始時が13.6%であったものが、終了時には試験区で最大23.7%と、対照区(干潟域)の14.3%と比べ、より向上していた。
- (2)收容したカゴの種類及び、垂下水深による身入りの差について検討した結果、丸カゴを用いた方が付着生物も少なく目詰まりを起こさなかったため、身入りが良かった。なお、垂下水深による明瞭な差は見られなかった。

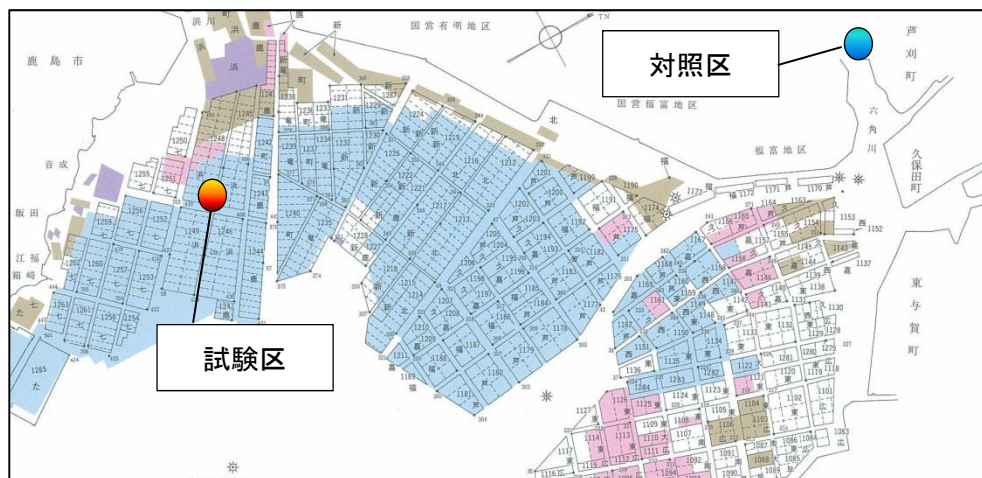


図1 試験機材設置場所

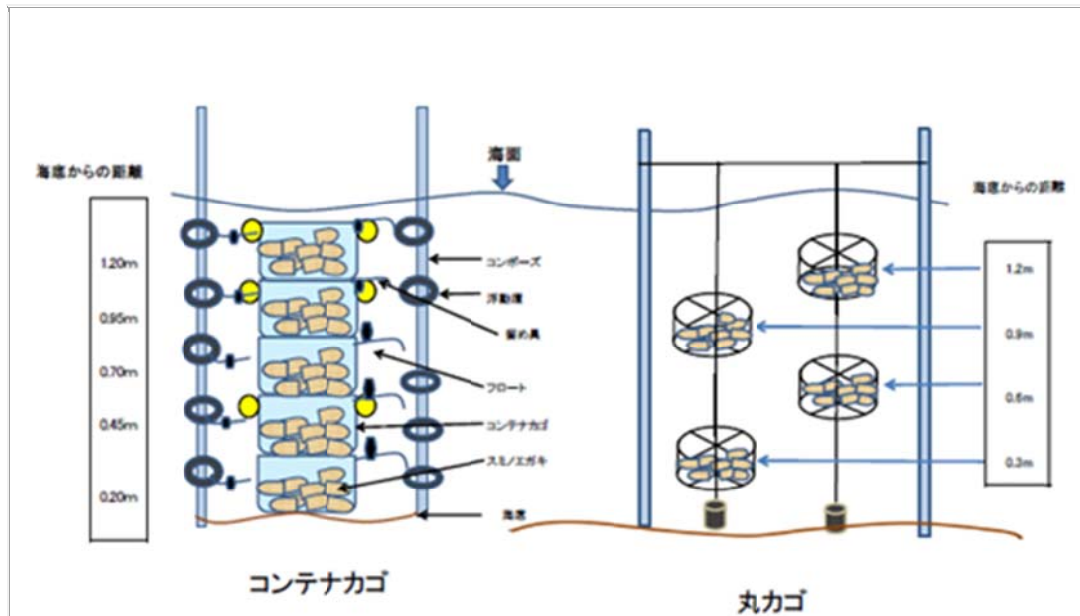


図 2 試験機材

[課題・問題点]

干出のない沖合域で短期間の蓄養を行うことで、干潟域に比べミノエガキの身入りが向上することが明らかとなったが、実際に漁業者が蓄養を行う際には、同時期に行われるノリ養殖に影響のない方法を考える必要がある。

[今後の対応]

ノリ養殖に影響がなく、簡便に作業できる垂下養殖の方法についての検討が必要である。

[その他]

研究期間：平成 26 年

研究担当者：普及担当 山田秀樹